

○民進党、前原代表で新たな船出

民進党の新しい代表が前原誠司さんに決まりました。一緒に代表選を戦った枝野幸男さんは、代表代行。幹事長には、前原さんと一緒に、「尊厳ある生活保障総合調査会」を運営してきた大島敦さんを抜擢。政策は、階猛さんなど、新しい顔ぶれでオールラウンドに陣容をそろえた新執行部が歩み始めます。私は、これまでと同様、衆参の両院議員総会長を続投します。党が一つになって、野党をリードしながら、安倍政権と「がっぷりよつ」で戦える力を再び蘇らせることです。党をまとめていきます。

○北朝鮮にどう対峙する？

北朝鮮の核実験やミサイル発射が続きます。先月、韓国で、文在寅大統領や、主だった国会議員と北朝鮮問題を中心に、日韓の懸案について議論する機会がありました。一連の話で、韓国は、北朝鮮との話し合いの糸口を作りたいという思いが強いことが分かりました。その基本姿勢を維持しながら、二つのジレンマに向き合っています。一つは、米国のトランプ政権が、韓国に相談することなく北朝鮮への先制武力攻撃を実行する可能性があるのでは、という懸念。もう一つは、迎撃ミサイル THAAD の韓国国内配備で、中国が反発し、韓国に対して制裁措置を課しているため、中国からの旅行者が激減していること等、韓国の経済に悪い影響を与え始めています。中国やロシアに対し、金融遮断と石油を中心とする根幹物資の禁輸までやれとアメリカや日本が国連の場で主張していく時に、韓国も足並みをそろえて、主張できるように持っていくことが大事です。

一方で、気になるのが中国の主張です。石油や日常物資まで止めれば、北朝鮮国内に暴動が起こり、難民の大量流出など大混乱が予想される。北朝鮮とアメリカの直接対話を導くためには、アメリカも米韓共同軍事演習はやめること。その上で、北朝鮮も核やミサイルの開発を一時棚上げして、話し合いに入ればいいと言っています。しかし、これは、アメリカにとっては、北朝鮮の時間稼ぎとしか映りません。完全な核とミサイルの廃絶が約束されることが

先だ。それが出来れば金正恩体制の存続は保障する。その上で、直接対話を進めるといふ、アメリカの姿勢とは、隔たりがあります。日本もアメリカと一緒に、中国に対して石油の禁輸を含めた更なる経済制裁を求め、仮に、中国がこれを受けて、本格的な制裁を決断する局面が出現するとすれば、どうなるか。北朝鮮の崩壊への対処への準備も必要だと思います。

○衆議院解散の風

衆議院の解散総選挙が一気に早まってくる兆しがあります。9月25日の臨時国会冒頭解散、今年の12月解散など、国会周辺では、具体的な憶測が飛び始めています。党では、政策をマニフェストとしてまとめる作業に入りました。教育の無償化、人間性を取り戻す働き方、共生社会の実現などを柱にした社会経済政策。専守防衛の平和主義貫徹、地域主権、環境権や新しい人権などの視点から見直す憲法論、原発政策など、次の世代を見据えて、今私たちが、何をしなければならないかという視点から、国民に訴えていきます。

足元では、私にとっては初めての伊賀・名張が三重2区に新しく加わりました。新しい出会いがあり、励まされて、増々元気が出ています。個性あふれる人々や色濃い文化が面白い地域です。国政であっても、住民に身近な政治家として受け入れてもらえる努力をしています。

これまでの、四日市、鈴鹿、亀山では、ポスターが目立ってきました。「うちの前に貼ったるよ！」「他の場所も手伝うよ！」と言っただけの皆さん、どうか事務所にゴ一報ください。

これまでと同様、県議や市議の皆さんと一緒に、各地でミニ懇談会を開催しています。何人の集まりでも結構です。中川と膝を交えて話し込もうという機会を作ってください。連絡をいただければ、直ちに日程の調整をさせていただきます。ぜひ、よろしくお願ひします。

時代の大事な転換点。国民に、もう一つの人間性あふれる選択肢を提起できること。しっかり、目標をもって、頑張ります。